

めげない、にげない、くじけない！



語られる真実 奏でられる心実

地福寺 気仙沼市波路路上牧
住職・片山秀光（72）

平成22年10月 節語り説法「二ツト『カッサパ（三迦葉）』を結成し音楽法話開始

昨年発生した東日本大震災の津波により本堂庫裡全壊の被災復興を誓って「めげない、にげない、くじけない」を合言葉に全国で活動中

今年の夏は、とても暑い日が続きましたが、特にロンドン・オリンピックでの日本選手の活躍、高校野球と盛りだくさんでした。去る5月19日子育て水子地蔵祭において、昨年自らも大津波で大きな被害を受けながら、見事に復旧された気仙

沼市岩井崎の地福寺住職・片山秀光師はじめ四人の音楽家の方々を本堂にお迎えし、「めげない、にげない、くじけない」と題し「節語り説法（音楽法話）」を開催しました。禅興寺始まって以来の事だと思えます。津波の体験や人生・禅について、とても良いお話を聞くことができ、多くの方に喜んでいただけた。心から感謝申し上げます。

又、来る11月18日（日）には、バスにて一関市の智勝院にて、世界初の「樹木葬」研修、気仙沼・南三陸町他の津波被災地を訪ねる慰霊の旅を予定しております。

皆様一人でも多くのご参加をお待ちしております。

青壮年部・女性部では、これからもお寺の護寺発展はもちろん、会員・檀信徒皆様に喜んでいただけることを目標に活動してまいります。今後とも、宜しくお願いいたします。

追記 8月19日、お寺の境内墓

地掃除をしましたが、花や供物などは各自家に持ち帰ってほしいものです。

榎ノ木

第五号

平成24年10月10日発行
青壮年部女性部広報
題字：大内翠峰

5月19日開催の水子地蔵祭り節語り説法と8月12日の施餓鬼会（女性部活動）を特集します。

気仙沼 地福寺片山師 節語り説法

会長あいさし

青壮年部・女性部 会長 石垣英孝

檀信徒・会員の皆様には、ご健勝

にてお過ごしのことと思います。常

日頃は当山並びに当会に対し、格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

沼市岩井崎の地福寺住職・片山秀光師はじめ四人の音楽家の方々を本堂にお迎えし、「めげない、にげない、くじけない」と題し「節語り説法（音楽法話）」を開催しました。禅興寺始まって以来の事だと思えます。津波の体験や人生・禅について、とても良いお話を聞くことができ、多くの方に喜んでいただけた。心から感謝申し上げます。

又、来る11月18日（日）には、バスにて一関市の智勝院にて、世界初の「樹木葬」研修、気仙沼・南三陸町他の津波被災地を訪ねる慰霊の旅を予定しております。

皆様一人でも多くのご参加をお待ちしております。

青壮年部・女性部では、これからもお寺の護寺発展はもちろん、会員・檀信徒皆様に喜んでいただけることを目標に活動してまいります。今後とも、宜しくお願いいたします。

追記 8月19日、お寺の境内墓

地掃除をしましたが、花や供物などは各自家に持ち帰ってほしいものです。



大本山妙心寺派巡教師 山崎忠司師（愛媛県）



晴天に恵まれた子育て水子地藏祭り！



笑いあり涙あり、片山和尚の被災体験が語られました



一流音楽家が法話をしっかりサポート

心ふれて

「子育て水子地藏菩薩祭り」と「節語り説法」に参加して

堀籠 さだよ

一年で一番美しい季節の中、5月

19日子育て水子地藏祭り、絵馬奉納、東日本大震災犠牲者の供養がありました。また、隆誕会（こうたんえ）と大本山巡教師 山崎忠司師より法話をいただきました。午後より「節語り説法」があり、初めて聞く言葉にはとても興味深いものがありました。

それは、大震災で被災された気仙沼市地福寺の住職さん、片山秀光師のお話でした。

住職さんが法話（語りべ）をしながら、生の伴奏に合わせて歌い語る音楽法話でした。初めての体験で、とても素晴らしく、大変感動致しました。

地福寺は、三百年続いた歴史あるお寺で三年前に本堂を建て替えたばかりで、津波で大きな被害を受けました。今まで何回も津波の経験をしているので、「今回も大丈夫」と

思っていたそうです。

ところがお寺の近くまで津波が来た時、「今回は違うー」とあわてて近くの民家に駆け込み、土足で二階に上がり、命が助かった、このこと。家族とは避難所で再会でき、何とか無事だったそうです。

この津波で九死に一生を得た片山和尚さんの一言一言が「魂の叫び」でした。自分も被害者だけに避難所に毎日足を運び、「めげない」「にげない」「くじけない」「みんな頑張りよう」「古里を再建しよう」と励まし、誓い合ったそうです。又、みなさんの協力を頂いて、地福寺の再建がわずか一年間でできました。お話を聞いていて、私は何もしてあげることが出来ないけれど、せめて「めげない」「にげない」「くじけない」のCDを買おうと思ひ、その場で購入しました。この歌を聴きながらペンをとりました。「涙を流した数だけ花を咲かせて、手と手をつなぎ、信じて生きよう」と歌っております。

被災された皆様に本当に幸多きことがありますようにと願っております。

「じやんごころま

― 施餓鬼会 精進弁当 ―



女性部の皆さん、美味しいお弁当ありがとうございました。

本年8月12日に菩提寺の禪興寺にて、お盆の行事の「施餓鬼会」並びに「新亡供養」の法要が行われました。

施餓鬼会とは、釈迦十大弟子の阿難尊者の故事にちなみ、萬霊と過去七代のご先祖が、飢えと渴きから救われる功德のある仏事です。禪興寺

では、一回目までのお盆を迎える新亡の供養を行っています。

我らが青壮年部・女性部では、行事のスムーズな運営を裏方から支えています。その中でも女性部の活動が、この行事には無くてはならない存在となっています。

女性部には、行事に参加している方々の昼食弁当の準備という、真夏の暑い時期には、大変な仕事を行っていただきました。

今回の精進弁当作りは、献立の打ち合わせ、買い出し、調理の下ごしらえ、器の洗い等々、多くの手間ひまが掛かっています。

また、地元の食材にこだわりの「産地消」の精神から、わが大和町吉田地区で取れたお米や、たけのこ、山菜を使用したものです。

お弁当のこだわりは食材だけではなくありません。見た目はまるで割烹で作った弁当のように華やかで、とても美味しく、行事に参加した和尚様方や檀信徒の皆様にも大好評でした。

多くの檀信徒が集まり、ご先祖様の冥福を祈り、女性部の心のこもったお弁当を頂き、心もおなかも満たされた夏の一日でした。



今年の施餓鬼会も和尚様方が廻りました。



隠し味の愛情込めて作ってま〜す♡



「うっ…うまい！おかわりある？」



見よ！これが、女性部渾身の精進弁当だ！

わげさ 輪袈裟を身に付けよう

輪袈裟ってなに？

袈裟(けさ)とはインドの原語で「柿渋色」のことです。本来墓場などに捨てられたボロ布を拾って洗い、目立たないこの色に染め直して縫い合わせたので、糞掃衣(ふんぞうえ)とも言います。その為盗まれる心配もなく、身に着ける者は修行に専念できる衣として大いなる功德があるとされます。又、その縫い合わせた姿が、田の畔を模しているため「福田衣(ふくでんえ)」とも呼ばれます。輪袈裟は、主として在家信者が身に着けるべき袈裟で、「輪」状になっている為「輪袈裟(わげさ)」と呼びます。



みんなも輪袈裟を身につけよう

なぜ輪袈裟を身につけるの？

良田であればあるほど、そこに蒔(ま)いた種子は数十倍、数百倍の収穫があるように、聖者に施された信者の供養は多くの功德をその信者にもたらしめます。

その為修行者の集団を僧伽(サンガ)と呼び、この世の全ての福德が弥増すとされます。その修行者の証である(輪)袈裟を身に着けると、修行者の自覚を培い、心の三毒(むさぼり、いかり、おろかさ)を除き、心身共に健やかな人生を送ることができるとされます。又、周囲の人々に慈悲や施しの心を広め、亡き大切な方々の御霊に素晴らしい功德を積むことができるとされています。

どうぞご法事、通夜、火葬、葬儀等、あらゆる仏事の機会に、欠かさず輪袈裟を身に付ける習慣をしっかりと身につけましょう。

礼服を仕舞う時は、輪袈裟、数珠と一緒にしておけば、「タンスのこやし」になりません。「あっ！又忘れたや！」などと、いつも言い訳しなくて済みますよ！(^o^)

今後の行事予定

◎11月18日(日) 樹木葬 被災地研修

◎12月8日(土) 成道会 大般若祈禱

編集後記

震災から一年七ヶ月がたちました。

「めげない、にげない、くじけない」の力強い言葉に私たちは心を強く打たれました。

今後もこの経験は忘れてはいけ
ない、後世にも語り継がなければ
なりません。と改めて感じた次第
です。

女性部の大変おしい弁当ご協
力ありがとうございました。

またひとつ強い絆が生まれたよ
うに感じました。

広報部

部長	鶉橋初雄
副部長	佐藤彰
部員	小川弘吉
	浅井明美
	早坂妙子
	浅野澄江
	相澤敏晴

発行

清浄山禪興寺青壮年部・女性部 広報部
〒九八一・三六二五
宮城県黒川郡大和町吉田字長福寺一
電話番号 〇二二・三四五・二〇六三